

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 2 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520055

研究課題名(和文)『畸人十篇』とその朝鮮・日本における思想的影響に関する研究

研究課題名(英文)Research of "Jin-ren shi-pian" and its influence on the thought of Korea and Japanese

研究代表者

柴田 篤 (Shibata, Atsushi)

九州大学・人文科学研究科(研究院)・教授

研究者番号：00117128

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、マテオ・リッチが中国人と行った対話を記録した『畸人十篇』について、その成立過程と思想内容を分析した上で、その朝鮮や日本に対する思想的影響について解明したものである。特に、該書の諸版本の異同に関する研究や明末刊本と清末刊本との異同に関する研究は、従来全く行われてこなかったもので、本研究の大きな成果である。また、思想内容としては、特に死生観をめぐってリッチと中国人との間で盛んな議論がなされていたことを明らかにした。更に該書の精密な現代語訳と詳細な注釈を行った点も、本研究の成果の一つと言える。

研究成果の概要(英文)：In this research, I analyzed the establishing process and the philosophical thought of "Jin-ren shi-pian", which is a woodblock printed record of colloquies between Matteo Ricci (1552-1610), who was a western intellectual, and Chinese scholar-officials, and I clarified that the record had influence on the thought of Korea and Japanese in those days. It is notable that there is no preceding literature that argues the difference of the use of Chinese characters among each edition of the record, including the edition in the Late Ming and that in the Late Qing. Then I described the difference in detail. As for the philosophical thought, I clarified that the main subject of the colloquies between Ricci and his opposite is their view on life and death. Besides that, I made precise translation and notes of "Jin-ren shi-pian" in modern Japanese.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：畸人十篇 マテオ・リッチ 天主教 明末 中西対話

1. 研究開始当初の背景

(1) 明末から始まるカトリック・キリスト教(天主教)の中国布教に関する研究は、近年ようやく活発に行われるようになり、関係資料の出版も次第に盛んになってきた。中心人物であるマテオ・リッチに関する研究も数を増してきた。本研究の研究代表者(以下、代表者)も、平成15~17年度の科学研究費の助成を受け、リッチの主著である『天主実義』の成立と出版、さらには思想内容に関する研究を行い、日本で初めての現代語による訳注を完成させた。しかし、その姉妹編であり、『天主実義』の成立と密接な関係を有する『畸人十篇』に関しては、まだ十分な研究がなされていないのが現状であった。

(2) 『畸人十篇』に関しては、日本思想史、殊に平田篤胤の研究などにおいて従来から注目され、それなりの論考も存在したが、その成立や内容に関する本格的な研究は内外共に殆どなされてこなかった。代表者は、『天主実義』の訳注作成の時点から、『畸人十篇』の版本の調査を行うなど、本格的な研究を行うための基礎的準備を行ってきた。また、明末に始まるイエズス会を始めとする西洋文化の流入が中国に与えた影響に関する研究が進むにつれ、『畸人十篇』などの書物がいかに重要な意味を持つかということが、明らかになってきた。本研究を行う意義が高まってきたと言える。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、明代末期に中国で活躍したイタリア人イエズス会士であるマテオ・リッチ(中国名は利瑪竇)が中国人と実際に行った対話を記録した『畸人十篇』について、その成立過程と思想的内容を詳細に分析することによって、この書物の持っている性格と思想史的意義を明らかにすることを目的とする。また、そのことによって、明末以降、西学・西教が中国に与えた影響の意味を説明す

るものである。

(2) 本研究は、『畸人十篇』が中国のみならず、朝鮮王朝や江戸期の日本にも思想的影響を与えたことに注目し、その実態と思想的意義について具体的に解明することを目的とする。従来のように、『畸人十篇』本文との断片的比較などでなく、その思想内容を深く理解した上で、その思想的影響について本質的な分析と解明を行うものである。

(3) 本研究は、『畸人十篇』諸版本の比較などの書誌学的研究を踏まえながら、内容について詳細な注釈を行いつつ、日本で初めて同書全体の現代語訳を作成することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 日本・台湾・韓国などの諸機関に所蔵されている『畸人十篇』の刊本や写本の調査を徹底的に行い、その刊行の経緯をたどった上で、諸本の異同等書誌学的研究を行う。

(2) 清末の刊本は明末刊本に比べて重大な文字の改変を行っているが、両本を比較検討することによって、改変の実態とその思想史的問題について解明を行う。

(3) 朝鮮・日本において、『畸人十篇』がどのように受容されていたかを具体的に調査分析し、その思想的影響の実態と思想史的意味について解明を行う。

(4) 『畸人十篇』や『天主実義』における西洋人と中国人との間で交わされた対話の内容を分析することによって、どのような思想的課題が問題とされていたかを解明する。

(5) 『畸人十篇』の書誌学的研究を踏まえながら、内容に関する詳細な注釈を伴った現代語訳を作成する。

4. 研究成果

(1)『畸人十篇』に関する先行研究をまとめ、その問題点を整理することによって、『畸人十篇』研究の課題と意義を明確にした。

(2)マテオ・リッチの『報告書』や『書簡』などを精査することによって、『畸人十篇』の成立過程を明らかにした。

(3)明末の諸史料を活用することによって、『畸人十篇』におけるリッチの対話者とその対話年代について、以前より明確にすることができた。

(4)『畸人十篇』の内容を精査することによって、各篇の主題について、『天主実義』との関連性も含めて明らかにした。

(5)「畸人」という語の典拠である『莊子』大宗師篇の主題を詳細に検討することによって、リッチが「畸人」を題名とした理由を、従来とは比べものにならないほど明確にすることができた。

(6)国内外に所蔵される『畸人十篇』の諸版本を調査し、書誌学的検討を行うことによって、刊行の経緯と諸版本間の関係、序文の相違などを明らかにした。

(7)明末刊本と清末刊本の文字の異同について具体的に解明し、「明清刊本校勘表」を作成した。このことによって翻訳史上の問題を解明するための有力な手がかりが得られた。

(8)諸史料を調査検討することによって、『畸人十篇』の朝鮮及び日本における影響について、具体的に明らかにすることができた。

(9)九州大学所蔵の『天学初函大意書』を翻刻し、『畸人十篇』に関する記述の特色を初

めて明らかにすることができた。

(10)『畸人十篇』の対話内容を詳細に読解し検討することによって、死生観が重要な課題となっているということを具体的に明らかにすることができた。今後、この視点から明清期の西教・西学東漸の思想的・文化史の意味について検討する道が開けたと言える。さらに、この視点から儒教・仏教・道教等を含む明末思想史を問い直すことも可能になったと考えられる。

(11)『畸人十篇』並びに『天主実義』における死生観をめぐる中西対話について、第58回国際東方学会議東京会議(2013年5月24日、日本教育会館)のシンポジウム「十七～十八世紀：西学東漸と東アジア」で発表を行った。本発表については、「中西の対決(衝突)ではなく、対話を強調する視点はきわめて新鮮である。」(『東方学会報』104、2013,7,29)との高い評価を得た。発表内容は、本年度刊行予定の『西学東漸と東アジア』に収載される。

(12)『畸人十篇』の第一篇から第四篇までの訳注を完成させた。これは従来になかった詳細な訳注である。今後、全十篇を完訳し刊行する予定であるが、これによって『畸人十篇』をめぐる諸問題に対する研究に裨益するところ極めて大であると予想される。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計3件)

柴田篤、古代中国人の死生観、生と死の探究、査読無、2013、pp. 23-37

柴田篤、朱子学における仁の思想、朱子学と近世・近代の東アジア、査読有、2012、pp.117-138

柴田篤、『畸人十篇』の研究(二) 第三篇・第四篇訳注稿、哲学年報、査読無、第71輯、2012、pp.143-176

〔学会発表〕(計1件)

柴田篤、明末天主教と死生観 中西対話の
底に流るるもの、第58回国際東方学者
会議東京会議、2013年5月24日、日本教
育会館(東京)

〔図書〕(計1件)

柴田篤、私家版、『畸人十篇』とその朝鮮・
日本における思想的影響に関する研究、2014、
76

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柴田 篤 (SHIBATA, Atsushi)

九州大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：00117128